

日本語教育部

■2023 年度

日本語教育部では、春学期と秋学期（セメスター・ターム）に日本語の授業を開講し、本学に在籍する留学生の日本語学習のニーズに対応している。このほか、日本語教育関連プロジェクトや各種留学プログラムの企画・運営も行っている。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼学内行事「第 13 回 YNU 日本語スピーチ大会」開催

2023 年 12 月 12 日、第 13 回 YNU 日本語スピーチ大会を開催した。4 年ぶりに制限のない対面形式によるスピーチが行われ、観客のみなさまにも会場でスピーチを聴いていただくことができた。本学の学生、教職員のほか、日ごろ留学生支援に携わるボランティアの方々にもご来場いただき、総勢 100 名以上の方にお越しいただいた。

本学で学ぶ留学生 10 名が「私を変えた〇〇」というテーマでそれぞれの思いを日本語で表現した。

審査の結果、最優秀賞はオーストラリアからの留学生で、JOY プログラムのヘイズ・ブライスさんが受賞した。なお、今回のスピーチ大会も例年通り国際交流の機会を促進するという目的のもと「国際理解：国際交流における日本語の役割」クラスの受講者に原稿のチェックやスピーチの練習の手伝いをお願いした。スピーチ大会当日の様子は本大会後援でもある読売新聞にて（12/14）紹介された。

▼日本語サポーターの日本語クラス参加

2013 年度より日本人学生による留学生支援や留学生との交流の促進を目的に日本語サポーターバンク制度を取り入れている。国際教育センターホームページ上で日本語サポーター募集クラスを公開し、日本人学生の日本語クラスへの参加の機会を提供している。2023 年度は様々な学部・学府に所属する学生計 95 名が新規登録をし、主に初中級レベルのクラスに参加した。2022 年度は新型コ

コロナウイルス感染拡大防止および教室の収容人数を考慮し、サポーターはオンライン授業期間中のみ受け入れ可能としたが、2023年度は教室の収容人数を考慮した形で対面による受け入れを再開した。

<http://www.isc.ynu.ac.jp/support/bank/>

2. 日本語科目

横浜国立大学の日本語の授業は、受講生の身分や単位修得の必要性によって以下の3つの科目に分けられる。詳細は、年2回発行される『日本語プログラムパンフレット』（<http://www.isc.ynu.ac.jp/study/pamphlet/>）に記載されている。

▼全学教育「日本語・日本事情」

全学教育科目「日本語中級」9コマ、「日本語上級」10コマ、「日本語演習3コマ」、「日本事情」2コマ開講し、年間延べ73名の学部生が受講した。

▼国際交流科目日本語

国際交流科目日本語は、単位修得を目的とした科目で、2023年度は、協定校からの交換留学生、YCCS生、日本語・日本文化研修留学生、世宗大学校日本交流プログラム、横浜国立大学日本語・日本文化プログラム生が受講した。

▼全学講習日本語科目

「全学講習日本語コース」は、単位修得を目的としない科目で、主に大学院生と研究生が受講対象である。修了条件を満たした場合には、修了証を発行している。2023年度も多く大学院生および研究生が受講した。

▼特別クラスの開講

・2023年度秋学期に日越大学 MBA プログラムの学生のために特別クラスを開講した。

・2023年度秋学期にインフラストラクチャー管理学（IMP）の学生のために特別クラスを開講した。

・2023年度秋学期に、華東師範大学 MBA 生のための日本語講義を担当した。

3. 各種留学プログラムの運営

▼短期留学国際プログラム（JOYプログラム）

協定校からの交換留学生を1学期または2学期間受け入れるプログラムで、留学生は日本語科目や英語による専門科目授業を受講する。受講が認められれば、全学教育科目や各学部が開講する専門科目の受講も可能である。日本語科目は必修ではないが、多くの留学生が日本語科目を受講した。

▼横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム

本プログラムは、韓国の世宗大学校と本学都市科学部の部局間協定に基づいた授業料徴収型短期留学プログラムである。修学期間は1年とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目、および都市科学部が提供する講義科目）を年間20単位履修する。その単位は世宗大学校で互換単位として認定される。コロナ禍のため、2020～2022年度には受け入れを中止していたが、2023年度には3年ぶりに受け入れを再開し世宗大学校から23名を受け入れた。

▼横浜国立大学日本語・日本文化プログラム

2016年10月より新しく授業料徴収型短期留学プログラムである横浜国立大学日本語・日本文化プログラムを立ち上げた。本学部局と相手大学の学部等が部局間協定を結ぶものであり、2019年度からは協定部局がこれまでの国際戦略推進機構から都市科学部へと移行した。2023年度には台湾淡江大学の学生9名を受け入れた。修学期間は1年とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目、および都市科学部が提供する講義科目）を年間24単位履修する。その単位は淡江大学で互換単位として認定される。

▼日本語・日本文化研修留学生（国費）の受け入れ

2014年度より、日本語日本文化研修生（国費）の受け入れを開始した。1期生4名（ブルガリア1 インドネシア1 タイ2）、2期生3名（韓国、フランス、ベルギー）、3期生3名（ハンガリー、ミャンマー、韓国（大学推薦））、4期生6名（ロシア、ブルガリア、モンゴル、シンガポール、ペルー、スロベニア（大学推薦））、5期生5名（ブラジル、モンゴル、カザフスタン、エストニア、イギリス（大学推薦））、6期生2名（中国、韓国（大学推薦））、7期生（ウクライナ、インドネシア、フランス（以上3名は11月に渡日）、中国（母国からの参加、渡日せず）、ブラジル（2022年3月渡日））、8期生（ブラジル1名 韓国1名、2022年10月渡日）、2023年秋には9期生（ロシア、ハンガリー、韓国3名うち1名は大学推薦、計5名）を受け入れ、日本語レベルや専門に応じ、日本学プロジェクト（必修）のほか、日本語科目や全学教育科目等を履修している（各学期合計12単位以上）。修了論文のテーマや最終発表の成果物はウェブサイトに掲載している。

http://www.isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、予備教育生（大学院進学予定の国費研究留学生）および教員研修留学生を対象とした15週のコースであり、レベル等によって、7～9コマの日本語科目の受講を義務付けている。2023年度大学院予備教育生は、春学期4名、秋学期4名を受け入れ、教員研修留学生は1名を受け入れた。

▼YCCSプログラム

YCCSプログラム生（7期生10名、8期生8名）は、日本語24単位が卒業要件となっている。各自のレベルに応じて、日本語授業を受講した。

▼科目等履修生制度の実施

神奈川県下の大学に在籍する留学生を対象に、日本語科目を履修できる制度と

して、科目等履修生制度を作り 2023 年 3 月、9 月に募集を行った。

▼かながわ留学生就職促進プログラム

同プログラムは、ヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラム（2017-2022 年度）の活動を引き継いだものであり、外国人留学生の日本国内での就職率を引き上げることを目的としている。

*本プログラムウェブサイト <http://www.careerjapan.ynu.ac.jp/>

4. 国内・海外出張

▼海外出張

- ✓ 出張者：中川健司
- ✓ 出張先：台湾
- ✓ 期間：2024 年 3 月 19 日～2024 年 3 月 23 日
- ✓ 用件：淡江大学（横浜国立大学日本語・日本文化プログラムに関する関係者打ち合わせ、同プログラムの説明会、授業見学）

- ✓ 出張者：金蘭美
- ✓ 出張先：韓国
- ✓ 期間：2024 年 3 月 22 日～2024 年 3 月 26 日
- ✓ 用件：中央大学校（韓国日本語学会参加）、世宗大学校（世宗大学校日本交流プログラム生に対する事前オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施／関係者打ち合わせ）

5. その他

▼神奈川県海外技術研修員の受け入れ

神奈川県海外技術研修員制度にて来日した研修員の受け入れを行った。研修員の専門は日本語教育で、本学では本人の日本語能力向上と日本語教授法の習得を目的とした研修を実施した。